

第Ⅱ章 校種別の指導の重点

1 幼児教育指導の重点

「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すとともに、小学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、幼稚園教育要領等に基づき、各幼児教育施設の創意工夫を生かした質の高い教育活動の充実を図る。

【幼児教育の基本】

幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

- (1) 幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること
- (2) 遊びを通しての指導を中心として、ねらいが総合的に達成されるようにすること
- (3) 幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにすること

1 生きる力の基礎となる資質・能力の一体的な育成

豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」、気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」、心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」を一体的に育んでいく。

2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程の編成・実施・評価・改善

幼稚園教育要領等の示すところに従い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児の心身の発達と幼児教育施設及び地域の実態に応じた適切な教育課程の編成・実施・評価・改善を図りながら、教育課程に基づいた教育活動の質の向上を図っていく。

3 小学校教育との接続

幼児教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うとともに、小学校との連携を図り、互いの教育内容等について理解を深める。

4 特別な配慮を必要とする幼児の指導の充実

特別な配慮を必要とする幼児の指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことや安心して自己を発揮できることなどに配慮し、個々の幼児の障害の状態や日本語の習得状況などに応じた適切な指導を組織的かつ計画的に行う。

【本年度の重点】

- ① 環境の構成や教師の関わりを工夫し、幼児期にふさわしい生活を通して、生きる力の基礎となる資質・能力を育む。
- ② 幼稚園教育要領等の理念の実現に向けて、教育課程の編成・実施・評価・改善を図り、カリキュラム・マネジメントを推進する。